

平成二十四年度春号

曹青かわら版

平成 24 年 5 月 2 日
山口県曹洞宗青年会
会 長 清 成 良 知

「平成二十四年度総会」報告

四月二十五日(水)、周南市のサンルート徳山にて平成二十四年度総会を開催いたしました。

二教区楞嚴寺田中康道老師を議長に、二十三年度事業報告・会計決算ならびに監査報告、二十四年度事業計画・会計予算等について議事を行い全会一致で承認されました。

県内各御



くお願い致します。

なお、総会後に初老を迎えられた会員三名の祝賀会が行われました。本年度初老を迎えられた方は次の方々です。

二教区	法蓮寺	中谷佳弘師
二教区	護国寺	橋本隆生師
十五教区	太用寺	守永千尋師

寺院様におかれましては、今年度も山口県曹洞宗青年会の活動にご理解ご協力を賜りますよう、よろし

諸老師方の益々のご活躍を祈念いたします。ありがとうございました。ごさいます。

↑記念品の贈呈。

お疲れさまでした！



「月例研修(一月)」

新作クラフト報告「三方の中板」

去る一月十九日(木)、一教区源久寺様を会場に月例研修を開催、昨年に引き続き三方の中に敷く中板を製作し、計六十枚を完成させました。すでに販売もしており、好評をいただいております。ご希望

の方はお近く
の会員までご
一報下さい。
売上金はタイ
山岳少数民族
教育支援
活動募金に充
てさせていただきます。



「ホイプム村と寮生の夢」

七教区 洞玄寺徒弟 江澤現之

今回、初めてタイでのボランティア活動に参加する運びとなり、六日間のスタディツ

アーに同行させて頂いた。

シャンティ寮に到着すると生徒たちが挨拶してくれ、颯爽と荷物を運び、先生に寮を案内して頂いた。荷物を置いて山岳少数民族が住むホイプム村へと向かい、彼らの直面している現実を見ることができた。

それは違法伐採によって切り開かれた山々、山腹に広がる遺伝子組み換えのトウモロコシ栽培である。この遺伝子組み換えトウモロコシは栽培法が特殊であり、強力な除草剤でトウモロコシ以外の植物を全て枯らしてしまう。そして五年ほどもすると土地がやせ細り、その後何も育たないようになってしまうという手法なのである。これはなんにもホイプム村の人が自然環境を



→切り開かれた森林

顧みない人たちというわけではない。明日の生活、来週の生活もままならない現状から、目先の利益に頼るしか方法がないと

カメラを向けると逃げる遊びをするホイプム村の子どもたち



この現状をみて私が感じたことは、私たちの支援が子供を通じて森を守ったり、布いては村全体を違法行為から遠ざけることにもなるということである。彼らがこの環境を抜け出すには、現状のように村全体が農業に従事する体系ではなく、農業以外での貨幣の獲得が彼らの間で普及しなければならぬ。そのためにはやはり教育しかない。このスタディツアーに参加する前は「支援＝子供が教育を受けることができる」という単純な図式しか頭になかったが、今回のホイプム村の視察を通して、支援を続けていくことの重要性を再確認した。

この現状をみて私が感じたことは、私たちの支援が子供を通じて森を守ったり、布いては村全体を違法行為から遠ざけることにもなるということである。彼らがこの環境を抜け出すには、現状のように村全体が農業に従事する体系ではなく、農業以外での貨幣の獲得が彼らの間で普及しなければならぬ。そのためにはやはり教育しかない。このスタディツアーに参加する前は「支援＝子供が教育を受けることができる」という単純な図式しか頭になかったが、今回のホイプム村の視察を通して、支援を続けていくことの重要性を再確認した。

シャンティ寮に戻ると、生徒たちが晩御飯を作ってくれていた。寮では掃除、買い物、洗濯、作物の栽培などを始め朝食と晩御飯も自分たちで調理する。この日は特別に豪華な食事を作ってくれていた。肉料理は来客時くらいしか食べないらしく、寮生も喜んでいた様に見えた。食事の前に



皆でお祈りをし、おいしく頂いた。食後は寮生が歓迎会を開いてくれ、お礼の言葉やモン族の衣装に身を包んだ女の子たちの踊り、喜劇などを見せてもらい、プレゼントをもらった。その後、杉谷さん（東京中日新聞タイ支局長）によるインタビュが行われ、タイ語の辞書を片手に英語を織り交ぜながら筆者もインタビュに加わり、彼らの夢や進路、その理由などを聞いた。彼らは誰よりも自分たちの現状や問題を理解しているように思えた。それは彼らになりたい職業で最も多かった答えが先生であり、理由として先生になつて自分の村の子供たちに教育をしたいという純粋な思いが伝わってきたからである。彼らの生活の一部に触れてみて一番感じたことは彼らが礼節よく、清らかで、優しいということである。仏教国であるタイは挨拶も合掌低頭で行う。また、寮では毎朝三時に当番が朝市に行き、調理する。掃除も朝食前に行う。筆者はこれらの体験からこの寮が修行道場のように思え、寮生がインタビュで教えてくれた生活の大変さや、同じ寮で出会った友達を一番の宝ものと言い、

人との縁を何より大切にしている彼らに感銘を受けざるを得なかった。また同時に今まで支援を続けてこられた諸先輩方が築かれたものの大きさを寮生・関係者の方々からの感謝の気持ちから図り知ることができた。今年で十六年となる支援活動の重みを受け止めつつ、筆者も今後の支援に尽力し、精進していきたい。シャンティ山口と山口県曹洞宗青年会では平成八年よりタイ山岳少数民族教育支援活動として、シャンティ学生寮の運営費、奨学金等の支援を展開しております。これまでのご支援を御礼申し上げますとともに、引き続きのご協力をお願申し上げます。合掌

「寺庭婦人セミナー」

十二教区 昌福寺 宮本昌孝

二月二十一日（火）、一教区広沢寺様に於いて寺庭婦人セミナーを開催しました。雨が降ることも心配されましたが、空も崩れることもなく、下関市の絵画教室「アートビレッジ39」より、藤井元康先生をお招きし『アートセラピー』（芸術療法）に

ついて、ご講義を頂きました。

『アートセラピー』とは、カウンセリングの現場でも用いられている心理療法の一つで、アートを通して、私達の中にある潜在的な無意識の世界にふれて、それを表現することによって自分自身を客観的に見つめたり、認識したり、心と体のバランスを整えたりすることだそうです。先生は元々絵を描かれるのが好きでしたが、アートセラピーの世界に出合い、絵を描くことが無意識の世界の自己表現、いろいろな苦しい場面を乗り切る力になっていったということに気付



かれ、さらにはパステルの持つやさしさにひかれて独学で色の勉強をされたそうです。「絵を描くということは特別で難しいこ

どのように思われるが、子供の様に気軽に落書きをしてほしい」と、県内外で活躍されておられます。

この度のセミナーでは、紙に描かれている円に、嬉しい、楽しい、辛い、悲しい等のテーマに沿って自由に線や色を加えていくということを経験させて頂きました。目で見ることのできない、心や感情が視覚化され、自分自身の今の気持ちや、考え方などに気付くことが出来ました。また、他の方と見せ合うことによつて、お互いがより理解しあえることもできました。

慌ただしく時間は流れ、心のストレスが多いといわれる現代社会ですが、自分自身の心だけではなく、他の方の心とも向き合うことが出来るという貴重な時間をいただいた、ありがたい体験となりました。

美味しい精進料理も
たのしみです↓



「涅槃会坐禅会」 二月二十一日(広沢寺)

四教区 直指院 田村光雄

この度の涅槃会では、力不足な身ながら、初めて維那の御役を頂戴し勤めさせて頂きました。

諸先輩方からアドバイスを頂き法要に臨みましたが、緊張で胸がざわついていたのを覚えております。

青年会行

持の中で、

経験させて頂くことの稀有な配役を勤めさせて頂くことによつて、法要における全ての配役が欠くことのできない大事なものであり、どんな配役も全力で勤めさせて頂かなければならないということ、この涅槃会を通して、改めて教えて頂いたよう



に思います。

法要後の親睦会でも、先輩方からお檀家さんとの付き合い方や住職としての気構えなど、大切なことを沢山教えて頂き、私にとつて大変貴重な時間でした。

来年も是非参加させて頂きたいと思えます。

「裁縫会」

一教区 広沢寺副住 土田裕明

・第一回(二月二十四日 一教区源久寺)
・第二回(三月十一日 一教区禅昌寺)
青年会の有志にて、副会長栗屋孝順師を講師にお迎えし、裁縫会を行っています。

一回目では自分のお袈裟を採寸し、寸法を決めて布を裁断するまでを行いました。二回目は実際に裁断した布を縫い合わせていきました。縦に三枚つなげたものを七列完成させたら、次の段階に移れるそうです。

まだまだ完成には程遠いですが、一針一針心を込めて縫い合わせます。



→ 裁断前の線引き。袈裟は、布を長方形に裁断し田の形に縫い合わせる割截衣(かつせつえ)の法で仕立てられます。

「東日本大震災一周忌慰霊法要」

一教区 広沢寺副住 土田裕明

平成二十四年三月十一日(日)、午後二時四十六分。一教区禅昌寺様を会場に東日本大震災物故者慰霊法要を厳修いたしました。

当日は県内各地から青年会員をはじめ多数のOB会員の方が来てくださり、総勢三十名余りになりました。被災地の方と心を繋ぎ、共に分かち合うために、午後二時より坐禅を行い心を静め、四十六分に大梵鐘が打ち切られ黙禱を捧げました。

その後、会長を導師に迎え、被災された方の慰霊とさらなる復興を祈念して、慰霊法要を厳修いたしました。

あの大地震から一周忌を迎えましたが、いまだに被災地では仮設住宅での自死や孤立の問題、ガレキ処理等、問題が山積み



になっています。このような、まだまだ復興したとは言えない状況でも、遠い山口では自然と意識は薄れ、どこか他人事に思ってしまうようになります。他人事で終わらせないよう、一人ひとりが心を通わせ、意識を繋いでいくことでもっと復興へ進んでいくのではないかと思います。

● 昨年より東日本大震災ボランティアにご協力いただきありがとうございます。収支報告書は総会資料をご覧ください。

● 復興支援活動の一環として、八月十八日(土)～二十一日(火)に福島県の子どもたちを山口に招き、「子ども禅のつどい」を開催する予定です。

「月例研修(三月)」

講演「仏教という宗教のユニークさ」

山口県立大学教授 鈴木隆泰先生

三月二十九日(木)、禅昌寺様を会場に、地元山口県立大学教授の鈴木隆泰先生をお招きして講演会を開きました。

釈尊の「四門出遊説話」を題材として、老病死を自分のこととして受け止められない人間の「無明」(根源的自己中心性)を特に取り上げ、そしてその際限のない人間の無明を押しさえる装置が宗教、仏教の役割であり大切であるという講演内容でありました。



多くの会員にとつて一発菩提心となったようです。今後もこういった勉強会を定期的に継続していく予定です。

フェイスブック公開しました!

フェイスブックに山口県曹洞宗青年会のページを作りました。ホームページとは異なる視点からコンテンツを提供していきますので、こちらもよろしく願います。

※コメントするにはアカウントを作成する必要があります。(管理者 広沢寺 土田裕明)

<http://www.facebook.com/yamaguchi.sousei>

●タイ山岳民族教育支援募金 クラフト販売状況●

二月十八日	観音寺(一教区)	クラフト	18,000円
		募金	2,807円
二月二十一日	寺庭婦人セミナー	クラフト	16,000円
		募金	1,000円
二月二十一日	真福寺(三教区)	クラフト	6,000円
三月三日	四教区心の大学	クラフト	33,600円
四月三日	源久寺(一教区)	クラフト	13,900円
		三方中板	30,000円
四月二十一日	長徳寺(一教区)	クラフト	13,000円

ご協力ありがとうございました

《お願い》クラフトを各種法要、イベントで販売させていただけないでしょうか。お近くの会員までご一報下さい。

【今後の行事予定】

- 月例研修(併修)
講師 宮城県石巻市 洞源院住職
小野崎秀通老師
演題「東日本大震災〜避難者と寺〜」
六月二十日(水)
七教区光善寺「清風講座」
- 子ども禅のつどい
八月十八日(土)〜二十一日(火)
- 徒弟研修会
八月二十七日(月)〜二十九日(水)

京丹後市の龍雲寺様での参籠研修、天の橋立・トロッコ列車などの京都市内観光です。(担当 禅昌寺)

編集後記 春法会が続くなか、境内の緑が濃くなってきました。作務に励んで体力をつけ夏を迎えたものです。

【お問い合わせ先】

山口県曹洞宗青年会事務局
熊毛郡平生町佐賀一七一四

龍護寺(四教区)清水賢明

電話 〇八二〇一五八一〇五四九
FAX 〇八二〇一五八一〇五五九